

『協同労働』の理念を力に 歩み続けてきた子どもたちとの居場所（サードプレイス）づくり



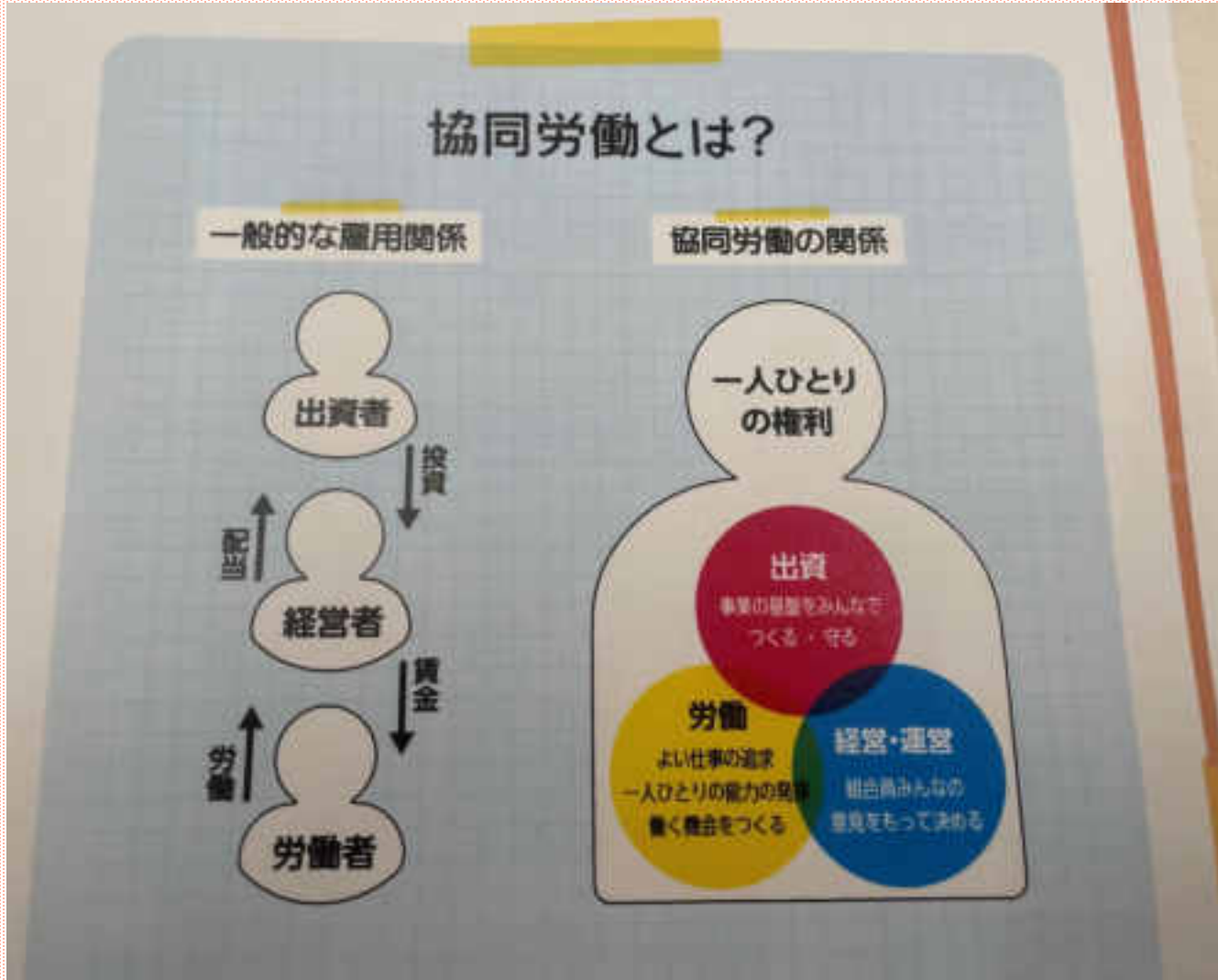
ワーカーズコープ
センター事業団
南東北事業本部
仙台地域福祉
事業所けやきの杜

瀬戸 理音

仙台地域福祉事業所けやきの杜について

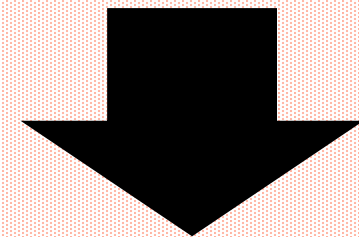
- 事業所設立：**2008年4月開所**。今年で14年目。
主に仙台市指定管理事業を運営。
- 事業内容：児童館**8館**、子育てひろば**1館**、院内保育所**1**か所、
中高生の居場所の運営。**【既存の事業+社会連帯活動】**
- 組合員数：**109名**/ 就労者数**145名**（2022年11月現在）
- 事業高：**4億1260万円**（令和4年度）
- 出資金総額：**3888万8千円**（1口5万、2か月出資、増資）
- **【子どもたちをまん中に 地域みんながふれあう あったか交流広場】**が軸。
- 各現場毎月の経営会議と団会議、月に1回現場責任者会議、主任会議、経理主任会議など。（組合員同士の話し合いを大事にする）

けやき流の協同労働とは？



大事にしていることは『話し合って決める』

- ・仕事の方針、新規事業の提案や挑戦にむけて
- ・給料や処遇（働き方）人事異動
- ・事業所内での役職や役割の創出



自由であり、必要だと思ったことは何でも挑戦できる
自分たちの雇用（働き方）も自分たちで決めれる
自分たちで創り上げる「充実感」

仙台市指定管理事業について

1998年3月：【特定非営利活動促進法】の制定
2003年9月2日【指定管理者制度】施行



仙台市では、2004年4月より指定管理者制度開始。



2008年4月「仙台市連坊小路マイスクール児童館」を運営開始
その後毎年指定管理者制度公募に挑戦し、事業拡大を経てきた。
2022年11月現在、指定管理事業9現場（全11現場）

※市内児童館113館（すべて指定管理）
管理運営団体は12団体。

仙台地域福祉事業所けやきの杜の歴史

- ・連坊小路マイスクール児童館（2008年4月1日～）
- ・子育てふれあいプラザ長町南（2009年10月28日～）
- ・荒町児童館（2010年4月1日～）
- ・国見児童館、大野田児童館（2011年4月1日～）
- ・金剛沢児童館、東長町児童館（2012年4月1日～）
- ・長町病院院内保育所「おひさまルーム」（2013年4月1日～）
- ・鶴ヶ谷東マイスクール児童館（2014年4月1日～）
- ・民間学童クラブ「れいんぼうはうす」（2015年4月～2018年3月）
- ・東宮城野マイスクール児童館（2017年4月1日～）
- ・「みんなのBASE」（中高生居場所）（2021年8月1日～）

主な事業内容

児童館

子育て家庭支援事業

児童健全育成事業

放課後児童健全育成事業

地域交流推進事業

のびすく

(子育てひろば)

子育てひろば事業

一時預かり託児事業

相談支援事業

おひさまルーム

(院内保育所)

小規模保育事業

挑 2
戦 0
し 2
た 2
取 年
組 度
み



「課題を大事にして、できる方法で挑戦する。」



金剛沢児童館

西多賀まちづくり「ライトアップ」



鶴ヶ谷東マイスクール児童館

空き店舗マルシェへの出張児童館



大野田児童館

地域へモルックをもって出張児童館



連坊小路マイスクール児童館

連坊商興会70周年記念「竹あかり」



荒町児童館

回文団扇から多方面へのひろがり



東宮城野マイスクール児童館

商業地域への出張児童館



のびすく長町南

休館日を利用したひろばづくり



おひさまルーム

園外での居場所「ふらっと塾」



国見児童館

東北福祉大学「互いに育てる」



SDGsフェスタ

SDGsは身近にあること
遊びで学ぶ



東長町児童館

ございん茶屋で地域へ
コンポストで繋がりづくりを



南東北コンポスト部

コンポストを地域づくりの
ツールへ



田んぼの楽校

もりの会

五感を育てる自然体験活動



フードバンク活動

けやきの全現場に
フードBOX設置



まちづくりサロン全3回

フードロス・コンポスト・地域課題



運動遊びラボチーム

運動遊びをもって社会連帯
活動へ



課題から誕生した 『みんなのBASE』



なぜ立ち上げたのか？

○健全育成事業に携わり14年。出会ってきた数々の「困難さ」

学校に行かない選択、いじめによる自死件数、ヤングケアラー、機能不全家族
子どもたちを取り巻く環境、困難な状況と向き合ってきた。

○コロナ禍の中で、児童館にこれない子どもたちの「居場所の必要性」

○組合員である前に「親」である私たち。ここを通り過ぎていいのか??

○目の前にいる子どもたちの「その時」に今から備えるため

○「指定管理事業」の枠をこえた「しくみ」の前例をつくる必要あり?

○「こども家庭庁」創設を意識、安全安心の居場所、体験体感の場と包摂できる場所。

「最善の利益」 「子どもの権利条約」 「子どもアドボカシー」 「子どもまんなか」



立ち上げてからの「今」

- ・開所から10月より本格始動。利用者ゼロから、月利用平均300人を超えるように。
- ・午前中は子育てママパパ、プレママたち。午後は小学生と中学生のごちゃませ状態。
- ・火、水、土日はみんなのBASE。それ以外は「フードバンク仙台」の活動日。
宮城南エリアの現場にフードBOX設置し、フードロスや生活困窮など社会的課題に共にむかう。
- ・地域コミュニティづくりのツールとして「だがしや BASE」を一角ではじめる。
- ・高校や大学のフィールドワークの場所として。
- ・「学校に行かないという選択」をした子どもたちが午前中から利用。保護者からの相談もあり。
- ・ママたちの「おもいつきサロン」の開催場所に。➡社会へ出るかもしれないきっかけづくりへ。
- ・やりたいことは「こども企画書」で。企画提案から開催までを子どもたち自らが行えるように。
- ・待ち合わせや雨宿り場所にも。
- ・他団体とのコラボで「まちづくりサロン」開催。協同労働について企業講話をする機会に。

みえてきたこと

- BASEに来ることが彼らにとって「自分の意思」そのもの。
→行く場所がある、あそこに行けば誰かがいるという安心感=**居場所**
- 小さな社会の縮図。いろいろな人がいるからこそ「受容する」練習をここでしている。
- ゆっくりと、「やりたいこと」を一緒に追える居場所が必要。
- 「支援してあげる」と近づく大人に対しては、拒否反応をしめす。
- 彼らの思いを「代弁できる」オトナの存在が必要。
- **オトナたちにとっても「心のBASE」であるということ。**

BASEの未来① 『多様なスタイル』で学べる場所へ



ホームベースド・エデュケーション

家を拠点にした、子どもに合った学びをすること。
興味関心やそれぞれのペースに合わせた学び。



今までつながってきたネットワークと
多岐にわたる事業を展開している全国組織
ワーカーズにしかできない強みに着目！！

BASEで想定される「学び場」の可能性

- ・ 児童館、保育所、のびすく
- ・ フードバンク仙台
- ・ コミュニティスクールの取り組み
- ・ 商店街（キャラの濃い店主たち）
- ・ 近隣大学
- ・ アートに特化した他団体
- ・ 演劇に特化した他団体
- ・ 防災士
- ・ アナウンサー
- ・ 理科実験おじさん
- ・ 性教育ができる他団体
- ・ 不登校支援をしている他団体
- ・ フリースクール
- ・ 市議会議員
- ・ プレーパークをやっている他団体
- ・ 武道（柔道、剣道、柔術）
- ・ サッカーチーム



ワーカーズコープ
全事業所

オンラインなら
全国とつながる

こどもだけじゃない。おとなも。

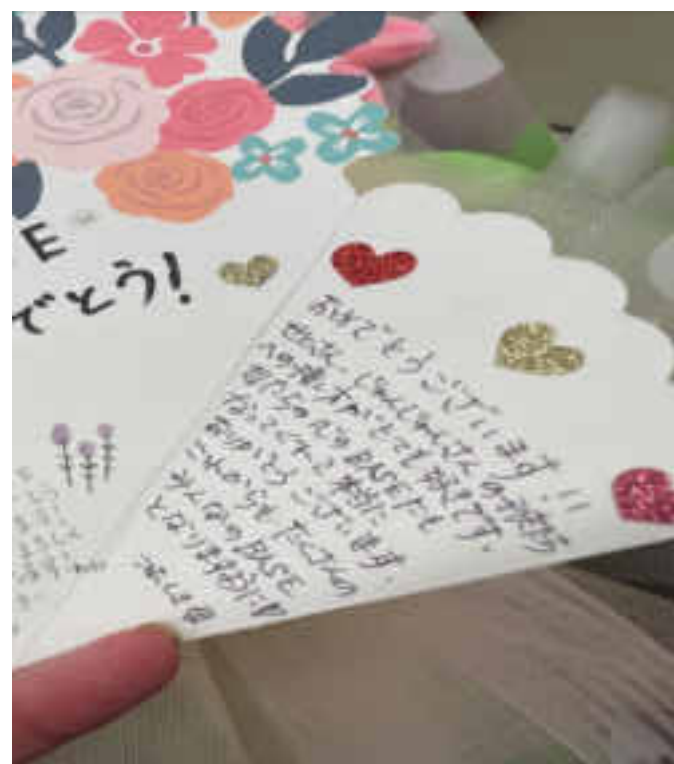
- 迷える母たち。子育て、自分のこれから。
「おかれた環境」で人生が変化していく女性たち。
- 『学ぶ機会をもちたい。』
- 日本における「女性の地位」はまだ低い。
孤独、焦り、不安、見通しがたたない将来。
わたしも『当事者』だからこそわかる苦悩。

自分たちはどう生きていきたいのか。

『役に立ちたい、なにかやりたい、チャンスがほしい』

**母たち自身のこれからの『生き方』にも伴走していくことが
そのまま子どもたちのケアにもつながるのではないか？**

BASEの未来② オトナたちが『出会える』場所へ





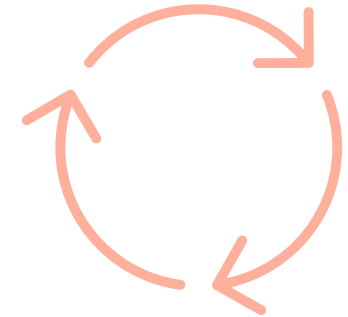
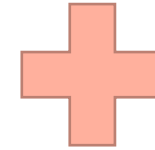
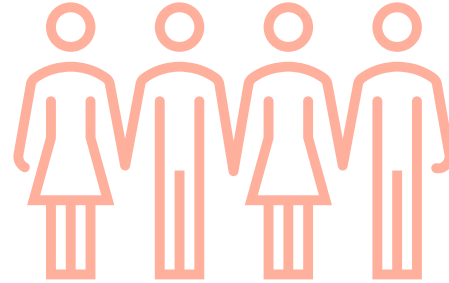
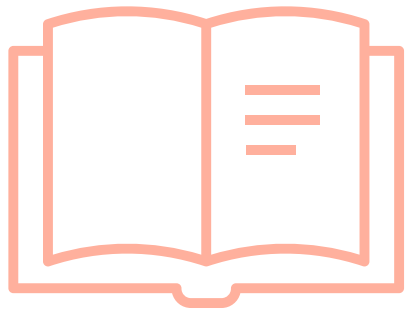
「小さな声」は
「ひろがり」という
花を咲かせる
「種」である。



人づくりは
仕事づくりに
つながる

『けやき流 人財育成スタイル』

共に学び、互いの取り組みに活かす。よい刺激は必ず相乗効果になっていく。



『学ぶチャンス』を逃がさない

教育研修の場をもつこと
何でも参加してみる
子育て以外でも学ぶ
視野を広げる努力をする

「得意」を「役割」にする

ひとりひとりの特性や得意を
役割にしていくことは
モチベーションアップへ

『スキルを循環』させる

それぞれがもっているスキルを
事業所内でどう循環させるか
他事業所へも循環していく

5年後、10年後に向かって

- ・それぞれが感じた課題から「仕事をひろげること」。母たちとの「社会連帯活動」へ。
- ・「ホームベースド・エデュケーション」を子どもたちの声をききながら環境をつくっていく。
- ・他団体とのネットワークづくりを。増えた小さな拠点は「前例」となっていく。
自分たちの取り組みをアウトリーチしていく。やがて「エビデンス」に。
- ・変わらず、子どもたちやその背景にいる大人たちの「かかりつけ医的な存在」であること。
 - ・「思い付き」と「柔軟な感覚」を忘れず、取り入れる事をおそれない。動き続ける。

フットワークを軽くし、どんどん「外」にでていく。

目の前の仕事だけに「巣籠らない」

これからも組合員たちみんなで、話し合っ、悩んで、乗り越えていきます。



MINNA_NO_BASE

ご清聴ありがとうございました。

東北ブロック労働者協同組合法周知フォーラム